

<p>第一課 四月六日 「何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある」 コヘレト 三ノ一 新共同訳</p>	<p>第二課 四月二三日 「もし主に仕えたくないというならば、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます」 ヨシユア 二四ノ一五 新共同訳</p>	<p>第三課 四月二〇日 「正義は御前を行き／主の進まれる道を備えます」 詩編 八五ノ一四 新共同訳</p>	<p>第四課 四月二七日 「主なる神は言われた。『人が独りでいるのは良くない。彼に合う助け者を造ろう』」 創世記 二ノ一八 新共同訳</p>	<p>第五課 五月四日 「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず／常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる」 箴言 三ノ五、六 新共同訳</p>	<p>第六課 五月一日 「わたしを刻みつけてください／あなたの心に、印章として／あなたの腕に、印章として。愛は死のように強く／熱情は陰府(よみ)のように酷(む)こい。火花を散らして燃える炎」 雅歌 八ノ六 新共同訳</p>
<p>第八課 五月二五日 「見よ、子らは主からいただく嗣業。胎の実りは報い」 詩編 一二七ノ三 新共同訳</p>	<p>第九課 六月一日 「そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いました。それらを塵(ちり)あくと見なしています。キリストを得(る)ためです」 フィリピ 三ノ八 新共同訳</p>	<p>第一〇課 六月八日 「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」 エフェソ 四ノ二六 新共同訳</p>	<p>第一一課 六月二五日 「こういうわけで、……自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです」 ヘブライ 一二ノ一、二 新共同訳</p>	<p>第一二課 六月二二日 「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです」 一ペトロ 二ノ九 新共同訳</p>	<p>第一三課 六月二九日 「見よ、わたしは／大いなる恐るべき主の日が来る前に／預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に／子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破壊をもって／この地を撃つことがないように」 マラキ 三ノ三、二四 新共同訳</p>
<p>第七課 五月一八日 「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」 ヨハネ 一七ノ二二 新共同訳</p>					